

私の茶道

福岡県立嘉穂高等学校二年（福岡県）

中村 絵里佳

二年前の春。新しい高校生活に期待と不安で胸をいっばいにして私は校門をくぐった。何か今までにやった事の無い事にチャレンジしたいと思い、吹奏楽部、サッカー部のマネージャーなど色々な部活動を見学した。そんな中、茶道部のチラシを見つけ興味本位で和室の扉を開いた。先輩たちが快く、そしてとても温かく迎え入れてくれた。しかし、稽古が始まった瞬間私は大きな衝撃を受けた。

「薄茶一服差し上げます」

を合図に先輩たちの顔つきは同じ人とは思えないくらい真剣な目差しに変わり、茶道に真摯に向かう姿がそこにはあった。私はその瞬間茶道に心を奪われた。「なんの部活にしようか」と迷いに迷っていた私であったが、気がついたら入部届には茶道部と書いて担任に提出していた。

入部当初は帛紗捌き、道具の扱い方、お茶室の入り方、お菓子の食べ方など基本的なことばかりでなかなかお茶を

点てることは出来なかった。しかし、右も左も分からない茶道に急に飛び込んだ私にとって覚えることが多く誰よりも苦戦したことを思い出す。

茶道を通して私の一番の学びは、「相手への気配り」だ。亭主、客、お茶を運ぶ人、水屋にいる人、どの立場に立っていたとしても相手への気配りは茶道で最も大切にすべき事だと思う。茶碗の正面は相手の方へ向ける、お客さんに背中を向けずに水屋に下がる、お菓子が回ってきたら次のお客さんに対して「お先に」と言う、茶碗の正面を避ける、茶道とは相手への細やかな気配りの連続だと思う。日常生活に置いてても周囲を見て、茶道で培った気配りの精神を持って行動していきたい。

また、茶道は私に自分と向き合う時間を与えてくれる。日常生活で友人や先生、親からも私は落ち着きがないとよく言われる。茶道は唯一と言っていいほど、私を落ち着かせてくれる場所なのかも知れない。お点前をしている時は無心になって自分と向き合うことが出来る。この時間を与えてくれる茶道は私を素の私で居させてくれるとても大事な居場所だ。

最後に私は今年度から部長に選ばれ、そして後輩にも恵まれることが出来た。部全体をまとめる立場、後輩を指導する立場として頑張っていきたい。そして、茶道に魅了された一人として二年前見て憧れを抱いた先輩方の様になれ

るように、真摯に茶道に向き合い、

「薄茶」服差し上げます」

を合図にこれからも茶道の道に精進していく。